



株式市場悲観論広がる

コロナウイルスが世界中に広がり、経済は大変なことになっている。米国は欧州からの人の移動をストップした。例外的なケースを除いて、欧州から米国への移動は不可能になった。アジアでも、今回の震源地である中国からの人の移動は世界のほぼ全域に対して制限されている。日本と韓国は相互に人の移動を規制する措置を取り始めた。

数カ月前までは膨大な数の人が国境を越えて動いていたのが、それが突如止まってしまった。動きが止まったのは観光客だけ

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

グローバル経済の危機

ではない。ビジネスに関わる人の移動もストップしている。もちろん、ストップするのは人の移動だけではない。工場の閉鎖などもあって、モノの移動にも深刻な影響が出始めている。アップルの iPhone (アイフォン) などの生産に支障を来しているし、自動車でも部品の不足などから生

このような事態に反応して、世界の株価はかつてないほどに急落を続けている。主要国の大胆な経済対策を期待して一時的に株価の回復の兆しを見せる動きも少しだけあるが、すぐにまたそれを打ち消

すような株価の暴落という流れとなっている。機能停止状況になりつつあるグローバル経済の現状をみれば、株式市場が悲観的になるのは当然だろう。

この先の展開で気になることが二つある。一つは、今のウイルスの広がりがどこまで続くのかという点だ。これは疫学上の問題で

脅威が下れば、生産・流通・消費という経済の流れの回復は早いのではないかと楽観的な見方も当初はあった。だから、ウイルス問題が出てきても、当初は株式市場も落ち着いていた。しかし、ここに来て株式市場に大きな混乱が起きているのは、ウイルス問題が長期化するという危機感もあるが、ウイルスの危機が去った後も経済の回復に時間がかかるという悲観論が広がっているからではないだろうか。

1月11日付本欄で、世界経済はある周期で危機を迎えるというようなことを書いた。その時には、まさかウイルスがその危機の引き金になるとは考えていなかった。残念ながら、世界経済は明らかに危機モードに入ってしまった。

世界的取引回復に時間

この30年ほどの間に、経済のグローバル化が広がりをもち、深さを増している。象徴的な例をあげれば、店頭から消えているマスクのような製品でも、メーカーは日

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。